SABO

落合地区床固工群

大きな安全―山系四国

国土交通省　四国地方整備局

四国山地砂防工事事務所

南小川（落合地区）の概要

南小川は、吉野川の中流部に合流する右支川で、流域面積86.6km²、幹川流路延長約12km、平均河床勾配1/10という急流河川です。落合地区はこの南小川と左支川の南大王川という、ほぼ同じ流量の河川が直角に合流する地点に位置していますが、合流後の川幅は広くなっていないため、水位上昇や土砂堆積に対する治水安全対策が課題となっています。

また、この周辺の地質は非常に風化が激しく、流域の大部分の山々で荒廃が進んでおり、地すべりの多発地帯でもあります。さらに、台風の常襲地帯でもあることから、毎年のように集中豪雨に見舞われるうえ、年間の降水量は2,500～3,000mmと非常に雨が多い地域です。このため、風化した地山や河道内に堆積した不安定な土砂が洪水のたびに流出し、土砂災害が発生しやすい地域になっています。

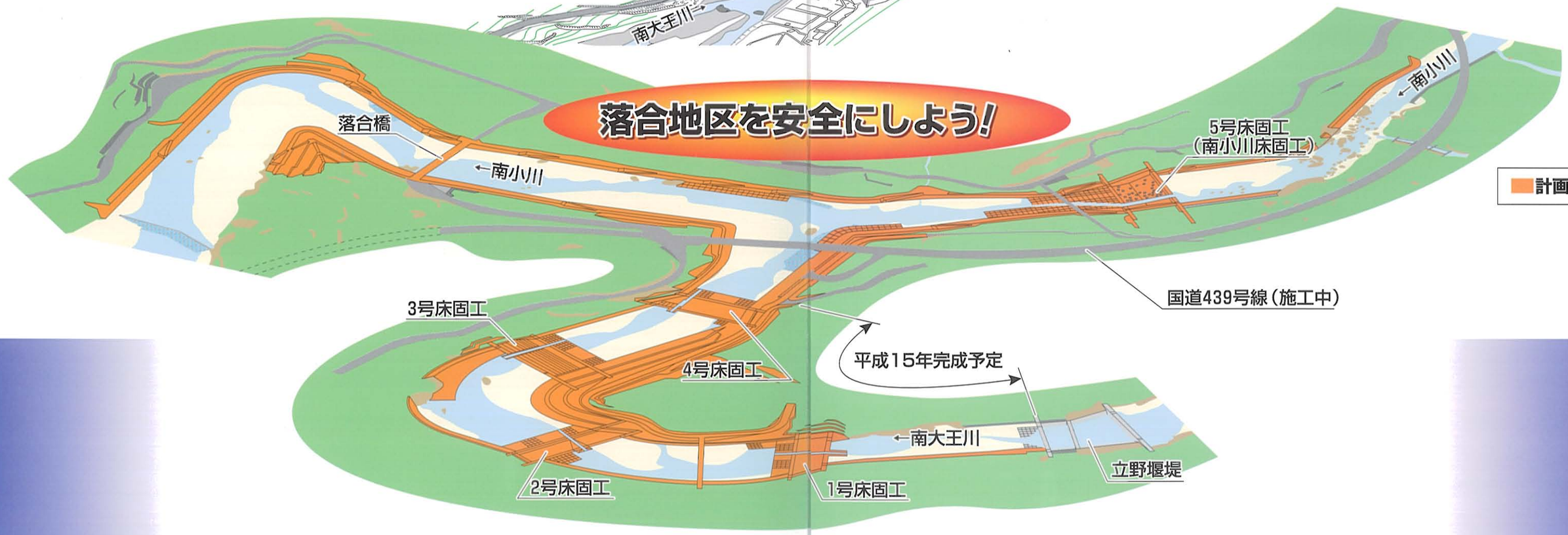
◀いまの落合地区

南小川の洪水時の様子▼

落合地区のあぶないところ

●100年に1回の規模の降雨による洪水が発生すると、流出した土砂により河床が上昇する可能性があるため、落合地区では浸水する恐れがあります。

落合地区を安全にしよう!



南小川（落合地区）の概要

南小川は、吉野川の中流部に合流する右支川で、流域面積86.6km²、幹川流路延長約12km、平均河床勾配1/10という急流河川です。落合地区はこの南小川と左支川の南大王川という、ほぼ同じ流量の河川が直角に合流する地点に位置していますが、合流後の川幅は広くなっていないため、水位上昇や土砂堆積に対する治水安全対策が課題となっています。

また、この周辺の地質は非常に風化が激しく、流域の大部分の山々で荒廃が進んでおり、地すべりの多発地帯でもあります。さらに、台風の常襲地帯でもあることから、毎年のように集中豪雨に見舞われるうえ、年間の降水量は2,500～3,000mmと非常に雨が多い地域です。このため、風化した地山や河道内に堆積した不安定な土砂が洪水のたびに流出し、土砂災害が発生しやすい地域になっています。

落合地区の砂防事業では…

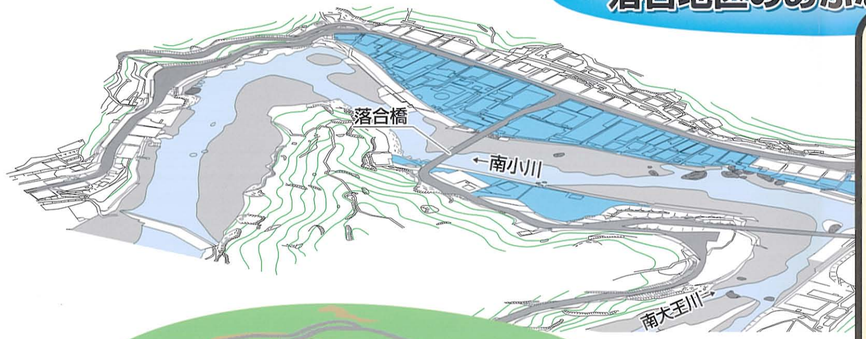
落合地区の砂防事業では、床固工群や護岸工を整備して洪水時の土砂災害から地域の安全を確保するものです。

①床固工群を整備すると河床勾配を緩くすることができます。この結果、洪水時に渓床の不安定土砂の移動を緩和して、渓床を維持することができます。

②護岸工は渓岸をコンクリートブロックで保護するものです。この結果、洪水時に渓岸侵食を受けないようにすることができます。　さらに、各構造物には、景観や生態系に配慮した工夫を凝らし、自然にやさしい川作りを目指します。

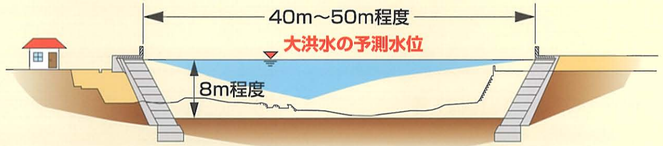
《平成14年9月中旬撮影》

落合地区のあぶないところ



計画河道断面

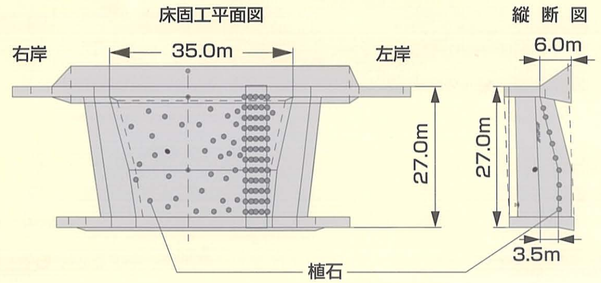
●川幅を広げるとともにパラペットで護岸の高さを嵩上げして、100年に1回の規模の降雨により発生する洪水でも安全に流すことのできる断面を確保します。



落合地区を安全にしよう！

●魚道を設けて、魚もすいすい昇れるようにします。

5号（南小川）床固工

●環境・生態系に配慮した全面斜路式床固工を作ります。

●魚道は斜面にそって作る形式なのでメンテナンスフリーです。